



現代文明國ニ於ケル人口問題(7)

米田, 庄太郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 11(1):71-84

(Issue Date)

1911-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051744>



現代文明國ニ於ケル人口問題（其七）

京都文科大學講師

米田庄太郎

一、人口出生率減少問題

- (1) 出生率減少ノ事實、
- (2) 出生率減少ノ原因、
- (3) 出生率減少ノ傾向ト人種改善策、

二、都市集中問題

- (1) 都市集中ノ事實、
- (2) 都市集中ノ原因、
- (3) 都市的淘汰作用、
- (4) 都市集中ニ對スル政策問題、

二、都市集中問題

(4) 都市集中ニ對スル政策問題

都市集中ニ對スル政策問題ハ廣ク解スレハ一方ニ於テハ此事實ヨリ都市ニ關シテ起ル政策問題ヲ意味シ、他方ニ於テハ又此事實ヨリ田舎ニ關シテ起ル政策問題ヲ意味ス。サレド茲ニ此等兩方面ヲ包括シテ論述スル暇ナキヲ以テ唯田舎ニ關

スル方面、更ニ其内ニ於テモ特ニ其根本的問題、即チ此事實ニ對シテ田舎ノ衰退ヲ防グ爲メニ如何ナル處置ヲナス可キヤヲ考究スルニ止メントス。

今此問題ニ關シテ從來ニ現ハレタル政策論ニ三種ノ方針アリト思フ。一ハ之ヲ以テ現代文明國ニ於ケル自然ノ大勢トナシ、敢テ之ニ向テ人爲的ノ策ヲ施サズ、自然ノ成行ニ委ネントスルモノ、或ハ之レニ對シテ自然ニ起リ來ル反動的傾向ヲ助長シテ其弊害ヲ矯メントスルモノ、二ハ斷然之ヲ停止スルノ策ヲ講ゼントスルモノ、三ハ其勢ヲ寬和スルノ策ヲ講ゼントスルモノナリ。而シテ余ハ茲ニ第四ノ方針トモ稱ス可キモノヲ提示シテ以テ聊カ此問題ノ解決ニ資セントスルナリ。

第一ノ方針ヲトル政策論トハ例ヘバ都市人ガ都市生活ニ疲レ其間ニ田舎生活ヲ憧憬スル念自カラ發生シ來リ都市スラ田舎ヘ向フ逆流ノ起ルヲ待テ之ヲ助長セントスルモノ、又ハ現今ノ人口の大運動ハ現代ニ本有的ナル深大ナル勢力ニ反應シテ起レルモノナレバ之ヲ停止セントスルハ宛モ大河ノ流ヲ遮留セントスルガ如シ。田園植民其他種々ノ策ヲ講ズルモ其效果ハ到底大ナルヲ得ズ、低廉ナル交通法其他ノ手段ニヨリテ都市勞働者ヲシテマス、多ク田舎ニ住居セシムルヲ

得シ。而モ彼等ハ農民トハナラザル可シ。現代ニ於テハ工業的及ビ商業的集合ハ避
ク可カラザル大勢ナリ。吾人ハ斯傾向ノマス／＼増進スルヲ豫期セザルヲ得ズト
ナスガ如キモノナリ。余ハ此種ノ政策論ニハ大ナル眞理ノ含蓄サレ居ルコトヲ承
認スルモノナリ。現代文明ノ精神及ビ現代經濟組織ノ本質上ヨリ自然ニ發展セル
斯都市集中ノ大勢ハ到底人爲的ニ抑遏シ得可キモノニ非ラズ。而モ此傾向ニヨリ
テ田舎ノ衰頹ヲ生ジ隨フテ一國ノ運命ガ危險ニ陷ラントスルニ當テハ假令大勢
ハ如何トモスベカラザルモ尙ホ相當ノ策ヲ施シテ其害ヲ避クルヲ得可シト信ズ。

第二ノ方針ヲトル政策論トハ例ヘハ嘗テ獨逸ノ農民黨ノ主張セルガ如キモノ、
即チ農家ノ下女下男ニ關スル條例ヲ甚ダ嚴重ニシ、彼等ノ婚姻ヲ困難ナラシメ、又
農業勞働者ノ移轉ノ自由ヲ禁ジ或ハ大ニ制限ヲ加ヘ、又鐵道ノ賃金ヲ引キ上ゲ、都
市ガ新來者ニ市民權ヲ與フルヲ禁ジ、或ハ都市ニ移住スル田舎人ニ居住稅ヲ科セ
ントスルガ如キモノヲ云フ。又佛國ノミセル氏ノ主張スルガ如キモノ、即チ都市ニ
於テ貧困ニ陷リ、或ハ浮浪生活ヲナス田舎移住者ヲ其出生地ニ強制的ニ送り歸ヘ
サントスルガ如キ政策モヤハリ都市移住禁止策ノ一種ト見做スヲ得可シ。サレド

個人ノ自由ヲ無視スル此ノ如キ政策ガ今日ノ文明國ニ於テ實行サレ難キハ敢テ喋々スルヲ要セズシテ明ラカナリトス。第一ノ方針及ビ第二ノ方針共ニ穩當ナラズトセバ第三ノ方針ノミ獨リ穩當ナルガ如シ。都市集中ノ傾向ノ現代ノ大勢ナルヲ認メテ敢テ之ヲ停止セントハセズ、而モ適當ナル策ヲ講ジテ其有害ナル結果ヲ防クマデニ之ヲ寛和セントスルハ此方針ヲトル政策論ノ主眼ナリトス。カノ農業勞働者ノ賃銀ヲ高メ、或ハ利益分配法ヲ行フノ策ヲ講ズルモノ、又田舎ニ於ケル娛樂機關ノ改良發達ヲ計ルモノ、又土地獲得ノ便ヲ計リ、更ニ「ブルシヤ」ノ Rentenbanken ノ如キモノヲ設立シテ資本供給ノ道ヲ講ズルモノ、又農業ニ於ケル科學ノ應用、農業教育及ビ種々ノ組合ノ發達ヲ計ルモノ等ハ余ハ大體上此種ノ政策論ニ屬スルモノト見ント欲スルナリ。ツマリ田舎生活ノ改善ニヨリテ都市集中ノ勢ヲ寛和セントスルモノニシテ余ハ此等ノ政策ハ夫レ〱多少ノ效果ヲ奏ス可シト信ズ。殊ニ余ハ農學及ビ農業教育ノ發達ニヨリテ農業者ノ活動及ビ收益ヲ増シ、且ツ教化及ビ娛樂ノ機關ノ改善發達ニヨリテ彼等ノ修養及ビ享樂ノ便ヲ大ナラシムルコトハ最モ效果大ナル可シト信ズ。若シ此等ノ便宜ニ於テ都市ト田舎ノ間ニ大差ナ

ク。人々ハ田舎ニ於テモ亦都市ニ於ケルト殆ンド同様ニ現代人ノ三大要求ヲ充足スルヲ得ルニ至ランニハ雷ニ都市集中ノ勢ガ寛和スルノミナラズ、大ニ減退スルナラント信ズ。サレド田舎ガ此ノ如キ状態ニ達スルニハ尙ホ多クノ歲月ヲ要ス可シ。或ハ施設宜シキヲ得ザレバ到底此状態ニ達スルヲ得ザルヤモ計ラレズ。是ニ於テカ他日田舎ガ此状態ニ達スルコトヲ理想トシテ今日適當ナル政策ヲ講ズルコトハ甚ダ重要ニシテ寛和主義ノ政策論中ニハ唯今述ベシ如ク此見地ヨリ見テ效力大ナルモノモアルガ余ハ其根本的條件ニ就テ尙ホ世人ノ明亮ニ理解セザル處ノモノアリト信ジ、茲ニ此點ヲ闡明シテ一新方針ヲ立テ、又之レニ因テ以テ適當ニ諸般ノ寛和主義的政策ノ實行ヲ計ラントスルナリ。

夫レ余ハ社會學ニ於テハ選良說 *elitism* ナルモノヲ主張シツ、アルモノナリ。是レ社會ヲ組織スル人員ヲ選良ト常人ノ二類ニ大別シ、選良ノ發明運營ガ社會進步ノ源泉ヲナシ常人ハ唯選良ニ指導誘掖セラレテ始メテ進步シ得ルモノニシテ自カラ之ヲ成ス力ヲ有セザルモノト見ル見解ナリ。サレバ此說ニヨリテ考フレバ一國ノ進步、一地方ノ進步ハ根本的ニハ其國、其地方ニ存在スル選良ノ活動ニ基ヅイテ

起ルモノニシテ、選良ニシテ消失センニハ其國其地方ノ人口如何ニ多大ナルモ、進歩ハ云フマデモナク現狀維持スラ困難トナリ、遂ニ衰頹ノ運命ヲ免ル、能ハザルナリ。今若シ都市集中ノ勢大ナルガ爲メニ田舎ノ衰頹ヲ起ストセバ其根本的原因ハ普通ニ考ヘラル、如ク單ニ地方人口ノ減少ニ在ラズシテ、特ニ選良ノ地方ヲ去ルコト多キニ在ルナリ。而シテ現今ノ都市移住ニ於テ如何ニ多ク選良要素ヲ含ムカハ既ニ紹介セシ諸家ノ研究ニヨリテ明カニ理解セラル、ナリ。サレバ都市集中ヨリ起ル田舎ノ衰頹ヲ防ガントスルニ當テ第一ニ着目ス可キハ如何ニシテ選良ヲ地方ニ保持ス可キヤト云フ問題ナリ。然ルニ先ニ述ベシ如ク都市ノ隆盛ハ又地方選良ノ移住集中ニ依屬スルコト大ナルモノナレバ都市隆盛ノ爲メニ地方選良ノ都市移住ハ一國ノ發達上又甚ダ重要ナル事ナリトス。是ニ於テカ此問題ハ甚ダ困難ナル問題トナル。一方田舎ニ就テ見レバ地方選良ノ茲ニ止マリテ其改善發達ヲ指導スルコトガ必要缺ク可カラザルモノナルヲ覺ラル、ト同時ニ、他方都市ニ就テ見レバ又其發達ノ爲メニ地方選良ノ茲ニ移住シ來ルコトガ甚ダ重要ナルヲ見ル。實ニ現代文明國ノ比類ナキ進歩ハ地方選良ノ多ク都市ニ集中セルコトヲ其

根本の一原因トナスモノナリ、

更ニ地方選良ノ都市集中ガマス、一般ノ都市集中ノ勢ヲ大ナラシムルモノナルヲ注意ス可シ。地方選良ノ都市移住ハツマリ地方ニ於ケル指導者ノ減少或ハ消失ヲ意味シ、爲メニ地方ノ事業ハ衰退シ地方生活ハマス、困難トナリ、然ラザレバ地方ニ止マラントスル常人モ遂ニ都市ニ移住セザルヲ得ザルコト、ナルナリ。之ニ反シテ相當ノ選良ガ地方ニ止マリテ之ヲ指導誘掖シ其改善發達ニ力ヲ盡クサンカ、一般ノ都市集中ヲ牽制スルコトモ亦少々ナラザル可シ。サレバ都市集中ノ勢ヲ寛和セントスルニ就テモ先ヅ地方選良ヲ地方ニ保留スル策ヲ講ズルコトノ最大急務ナル理ハ明カニ會得セラル、ト信ズ。然ルニ他方面ヲ見レバ都市ノ發達ノ爲メニモ亦地方選良ノ都市移住ヲ必要トスルモノナレバ如何ニシテ此ノ「デレンマ」ヲ解決ス可キカ、

今地方ニ於テ選良の素質ヲ具ヘテ生レタル優良要素ニ就テ見ルニ之ヲ大體上二種ニ大別スルヲ得可シ。一ハ富豪ノ家ニ生レタルモノ、二ハ貧家又ハ中等ノ家ニ生レタルモノナリ。而シテ今日ノ狀態ニ於テハ貧家又ハ中等ノ家ニ生マレタル優

良要素ハ到底田舎ニ於テ充分ニ其人格ヲ發展シ其手腕ヲ振ヒ、又之ニ應ズルハ
ヲ收ムルヲ得ズ。一言スレバ成功スルヲ得ズ。サレバ此種ノ選良ヲ地方ニ止マラシ
ムルハ實ニ彼等一身ニトリテノ大不幸ナルノミナラズ、又國家ノ爲メニモ否ナ人
類全體ノ爲メニモ大損害ナルナリ。是レ余輩ノ選良說ノ上ヨリ見レバ人類ノ進歩
ハ小數ノ選良ニヨリテ起サル、モノナレバ一人ニテモ選良ヲ無効ニ終ラシムル
ハ人類ノ爲メ國家ノ爲メ大ナル損害ナレバナリ。サレバ此種ノ選良ニ就テハ實ニ
其都市ニ移住スルガマヽニ放任シ置ク可キモノナルノミナラズ、更ニ其地方ノ人
々又政府モヨロシク彼等ノ都市移住ヲ獎勵シ、或ハ助ク可キモノナリトス。然ルニ
富豪ノ家ニ生マレタル優良要素ニ就テハ大ニ之レト趣キヲ異ニスル處アリテ存
ス。彼等ハ生レナガラニシテ既ニ貧家又ハ中等ノ家ニ生マレタル選良ガ奮闘努力
ノ後始メテ獲得シ得ル物質的生活條件ヲ具備スルナリ。サレバ其人格發展ノ準備
ハ之ヲ都市ニ求ム可キモ否ナ求メザル可カラザルモ其活動ノ範域ハ之ヲ地方ニ
求メ、直接ニ自家ノ利益ヲ計ルヨリモ寧ロ地方發展ノ指導者タルノ職ヲ盡クスヲ
得ルナリ。又假令彼等ハ地方ニ住居スルモ交通機關ノ發達ハ彼等ヲシテ容易ク都

市生活ノ便益ヲ享樂スルヲ得セシムルナリ。ツマリ彼等ハ都市ニ出デ、人格發展ノ準備ヲナセシ後ハ、地方ニ歸リテ住居スルモ現代人ノ三大要求ヲ充足スルニ於テ敢テ不便ヲ感ゼザルナリ。但シ今日ノ狀態ニ於テハ地方の事業ノ收益ハ一般ニ都市の事業ノ收益ニ劣ル處アレバ、彼等ガ地方の事業ニ其資力ト活動ヲ集注スルコトハ多少收益ノ犧牲ヲ含意スルモノナレド、而モ彼等ハ宜シク國家ノ爲メ一時此不利益ヲ忍ビ、而シテ他日同等ノ收益ヲ生ズルニ至ル様地方の事業ノ改良發達ヲ計ル可キ也。余ハ地方ノ富豪ニ此奉公心公德心ノ發達スルコトハ今日都市集中ヨリ起ル地方問題ヲ解決スル根本的條件ナリト信ズ。從來我國ニ於テハ幸ヒニ「アブサンテイズム」ノ弊害少ナカリシガ然ルニ近來地方ノ富豪ニシテ農業ヲ顧ミズ主トシテ商工業ニ資力ヲ投ジ、且ツ一年ノ大部分ヲ都市ニ送ル人々マス、増加シツ、アルハ此問題ヨリ見テ殊ニ悲ム可キコトト思フ。余ハ此點ニ就テ地方富豪ノ一大猛省ヲ願ハザルヲ得ザルナリ。之ニ反シテ從來「アブサンテイズム」ノ弊害甚大ナリシ佛國ニ於テハ近來都市ニ住居スル地主ハ漸次地方ニ歸リテ農業ノ改良其他地方ノ發達ニ盡力スル傾向起リ來レリト云フ。是レ同國ノ爲メニ大ニ賀ス可

キコト、思フ。我國ニ於テハ幸ヒニ「アブサンテイズム」ノ弊害尙ホサホド大ナラザレバ今日ヨリ地方ノ富豪ノ子弟ヲシテ上述ノ如キ理ヲ覺ラシメ、又上述ノ如キ奉公心ヲ養ハシムレバ地方問題ノ解決上大ニ良結果ヲ收ムルヲ得可シト信ズ。

地方發展策、都市集中寛和策ニ就テ學者政治家政府等ガ如何ニ妙案ヲ立ツルモ地方ニアリテ實際其ノ方針ニ地方人ヲ指導誘掖スル選良其者ノ存在セザルトキハ多クハ無效ニ終ルヲ常トス。我國今日ノ地方問題ニ就テハ政府ノ立ツル政策、學者ノ論說スル工案、敢テ妙ナラザルニ非ラズ、而モ其實績ノ舉ルモノ少ナキハ要スルニ地方選良ノ缺乏ニ基因スルナリ。此點ニ就テ殊ニ興味ヲ感ズルハ中央政府ニ多クノ選良ヲ出ダセル地方ホド却テ其レ自身ハ衰退スルガ如キ傾向存在スルコトナリ。サレド此ハトニカクトシテ余ハ今日都市集中ヨリ起ル地方問題ヲ合目的ニ解決スル根本的條件ハ地方ノ富豪ニ生マレタル選良ガ其地方ニ止マリテ其改良發達ノ爲メニ堅固ナル倫理的信念ヲ以テ大ニ力ヲ盡クスコトナリト信ズ。

前節ニ引證セシギルレット氏ノ論文中ニハ都市集中ヨリ起ル地方問題ヲ解決スル最モ有力ナル方法トシテ左ノ如キ立說アルヲ見ル。

田舎生活ヲ改造シ、新シキ内容、目的及ビ理想ヲ以テ之ヲ充タシ、青年ヲシテ一ノ尊重ス可キ、有益ナル又望マシキ生業トシテ農業ヲ觀念セシムルヲ得可シ、田舎ノ學校ヲ改造スルハ是レ田舎人民ノ次ノ世代ヲ改造シ、而シテ彼等ニ彼等自身ノ適當ナル指導者ヲ與フル所以ナリ。學校ガ農家ニ重要ナル事柄ヲ教ヘ、農業ノ問題ヲ考究シテ能ク之ヲ理解シ又解決センコトヲ勉メ、農業ハ最モ重大ナル又最モ根本的ナル生業ノ中ニ位スルモノナリト云フ觀念ヲ反照シ、村落ノ思想及ビ利益ガ調和シ膨脹スル爲メニ會合モ融合スル社會的中心トナリ、而シテ茲ニ男女兒童ガ都市ノ謹囂ニ反シテ自然ト親シク接觸スル生活ヲ營ミ、田舎ノ靜安ヲ樂ムノ利益ヲ溫タカキ同情ヲ以テ示教セラレンニハ、之レニヨリ都市移住ノ大勢ガ大ニ抑止サルハ、コトナカランモ、而モ或ル秀拔ナル指導者ヲ田舎ノ爲メニ保留スルヲ得テ、此處ニ住息スル總テノ人々ハ大ニ改善セラレ又利益ヲ受クルナラン。

ギルレツト氏ノ說ク處愚見ニ類スル處大ナレド尙ホ充分ナラズト思フ。殊ニ都市ノ喧噪ニ對シテ田舎ノ平靜ヲ說クガ如キハ、尙ホ舊臭ヲ脱セザルモノト云フ可

シサレド選良ノ幾分ヲ地方ニ保留スルノ必要ヲ説ク處ハ大ニ余ノ贊成スル處ナリトス。

約言スレハ現代文明ノ下ニアリテハ人格ノ自由發展、自由活動及ビ自由享樂ノ三大要求ヲ充足スル便宜ニ於テ都市ト田舎ノ間ニ大ナル差異ノ存在スル以上ハ如何ナル政策ヲ立ツルモ、之ニヨリテ都市集中ノ傾向ハ大シテ寛和サル、コトナカラシム。而シテ此差異ノ減少スルニ隨フテ此傾向ハ寛和サレ、更ニ都市ヨリ田舎ニ向フ反對ノ傾向モ起リ來ラン。然ルニ今日ノ狀態ニ於テ此差異ヲ減少スルニハ地方富豪ノ家ニ生マレタル選良ガ地方ニ止マリテ充分ニ現代的人格ヲ發展スルト共ニ地方ノ改善發達ニ盡力スルコトハ最も根本的ナル必要條件ナリト信ズ。併シ詳細ニ此問題ヲ論述スルハ本論文ノ主意ニ非ラザルヲ以テ唯根本的方針ヲ提示シテ讀者諸氏ノ參考ニ供スルニ止ム。

サテ余ハ本紙數回ニワタリテ現代文明國ニ於ケル二大人口問題ニ就テ聊カ愚見ヲ陳述シタルガ、終リニ此等二問題ノ關係ニ就テ一言シテ以テ本論ヲ結ハントス。

上文論ジ來リシ處ヲ考フレバ現代文明國ニ於ケル人口出生率ノ減少及ビ都市集中ノ傾向ハ共ニ根本的ニハ現代文明ノ精神トモ云フ可キ人格ノ三大要求ノ發動ノ結果ノ特ニ人口狀態ニ於テ發現シタルモノニ外ナラズ。サレバ此等二現象ノ間ニハ親密ナル關係アリテ存スルハ云フマデモナシ。ツマリ現代人ノ三大要求ノ發動ノ結果トシテ人口狀態上一方ニ於テハ出生率減少ノ傾向起リ、他方ニ於テハ都市集中ノ傾向起レルモノナルヲ以テ、此等二現象ハ互ニ相交又スル點ヲ有スルナリ。

先ヅ現代文明ノ精神ニ驅ラレテ田舎人ノ移住シ來レル都市ハ又此精神ノ最モヨク發動セル場處ナレバ此處ニ出生率減少ノ傾向ハ最モ著シク發現スルナリ。次ニ義務教育交通機關等ノ發達ニヨリテ現代文明ノ精神ガマスゝ田舎ニモ瀾散スルニ隨ヒ、殊ニ都市ニ移住シテ立身ノ途ヲ求メン爲メニ田舎人モ亦マスゝ人口制限ヲ行フニ至ルナリ。此ノ如ク同シ源ヨリ出デタル此等ノ二流ハ又相交又シテ互ニ他ノ勢ヲ強ムル結果ヲ生ズルナリ。此理ヲ會得スルハ甚ダ肝要ナリトス。佛國ノ學者中ニハ都市集中ハ如何トモス可カラズ、又敢テ憂フル可キモノニ非ラズ、

眞ニ憂フ可キハ其源泉タル地方人口ノ出生率ノ減少ナリ、サレバ根本的問題ハ如何ニシテ都市集中ヲ妨遏ス可キヤト云フニ非ラズシテ、如何ニシテ人口出生率ノ減少ヲ防グ可キヤト云フコトナリト説ク人アリ。此等ノ人々ハ此等二現象ノ間ニ親密ナル關係ノ存在スルヲ覺レド而モ未ダヨク其真相ヲ觀破スルニ至ラザルモノト云フ可シ。同ジ源ヨリ出デタル二流ノ一ガ遮留シ得可クハ他モ亦敢テ遮留スルニ難カラザル可シ。

人口出生率ノ減少及ビ都市集中ノ傾向ハ共ニ同一源泉ヨリ發出シ、相伴ナフテ發展スルモノトセバ、彼等ニ對スル政策論ノ根底ニモ亦相通ズル處ナカル可カラズ。是レ余ガ出生率減少ニ對スル政策論ニ於テハ人種改善學ノ精神ヲトリテ量ノ損失ヲ質ノ改善ニヨリテ補ナヒ、否ナ量ノ減少分ヲ劣惡質ニ負ハシメ、唯優良質ノミヲ保存シテ以テ健全ナル人類ノ發達ヲ計リ、又都市集中ニ對スル政策論ニ於テハ選良、優良要素ノ幾分ヲ地方ニ保留スルコトヲ以テ其根本的方針トナス所以ナリトス。ツマル處ハ余ハ選良説ヲ應用シテ此等二問題ニ關スル政策論ノ基礎ヲ据ヘントスルモノナリ。(完結)